



活動レポート 2024-25



■ ESD 推進ネットワーク

文部科学省と環境省は、ESD 活動の支援を行うために、全国センターと8つの地方センターを開設しています。地域 ESD 活動推進拠点や、各地の ESD 活動に取り組む皆さんとともに、SDGs の達成に向け、ESD の推進を行っています。

■ 関東地方 ESD 活動支援センター

関東ブロック（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・山梨・静岡）における、学校、社会教育施設、NPO/NGO、企業など、様々な組織の方の、ESD 取組の推進や、SDGs に関する学習などの支援を行っています。地域 ESD 活動推進拠点との連携のもと、ESD 推進ネットワークの広域的なハブ機能を果たします。

設置者

■ 関東地方の地域 ESD 活動推進拠点（令和 7 年 2 月現在、56 拠点）

ESD 活動支援センター（全国・8 地方）では、各地域で ESD の取組を支援することで ESD 推進ネットワークを牽引する「地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）」を、重要なパートナーと位置づけています。地域 ESD 拠点は、地域で先導的、波及効果の高い ESD 活動を実践している組織・団体や、地域で ESD 活動を支援している組織・団体などの協力を得て、形成されています。地域 ESD 拠点は、趣旨に賛同して登録していただき、公開する仕組みとなります。詳細については、当センターまでお問い合わせください。

■ 茨城県



**認定 NPO 法人
茨城 NPO センター・コモンズ**
水戸市大工町 1-2-3 トモスみとビル 4 階
みとしんビジネスセンター C-1



BEK Lab（べくらぼ）
つくば市金田 88 番地



キャノンエコテクノパーク
坂東市馬立 1234 番地



合同会社ポットラックフィールド里美
常陸太田市折橋町 858-1



認定 NPO 法人 セカンドリーグ茨城
水戸市梅香二丁目 1 番 39 号

■ 栃木県



NPO 法人 エコロジーオンライン
佐野市植上町 1331-6



一般社団法人 社会デザイン協会
日光市猪倉 3392 番地 175



栃木県環境カウンセラー協会
宇都宮市上戸祭町 691-4



学校法人 アジア学院
那須塩原市槻沢 442-1



NPO 法人 那須高原自然学校
那須郡那須町湯本 213-1001

■ 群馬県



**チャウス自然体験学校
（NPO 法人 チャウス）**
桐生市広沢町 7-7-5



**サンデンフォレスト
（サンデン株式会社）**
前橋市柏川町中之沢 7



上州ぐんま ESD 実践研究会
高崎市根小屋町 741
高崎商科大学 萩原豪研究室



きりゅう市民活動推進ネットワーク
桐生市末広町 11-1
J R 桐生駅構内



**藤岡市ボランティア
ネットワークセンター ウィズ**
藤岡市藤岡 1485（総合学習センター 内）

■ 埼玉県



筑波大学附属坂戸高等学校
坂戸市千代田 1-24-1



一般社団法人 里山こらぼ
飯能市上名栗 412-1

■ 千葉県



NPO 法人 環境パートナーシップちば
千葉市花見川区横戸台 21-13



ち〜ば国際教育ネットワーク（CIEN）
千葉市美浜区中瀬 1-3 幕張テカガ・デッド棟 14F
（公財）ちば国際コンベンションビル内
JICA 千葉デスク



流山防災まちづくりプロジェクト
流山市西深井 238-4



一般社団法人 銀座環境会議
松戸市上本郷 902-1-403



NPO 法人 コミュネット流山
流山市美原 4 丁目 215 番地 4

■ 東京都



一般社団法人 新宿ユネスコ協会
新宿区原町 1-39



立教大学 ESD 研究所
豊島区西池袋 3-34-1
立教大学 池袋キャンパス 12 号館 2 階



NPO 法人 新宿環境活動ネット
新宿区西新宿 6-12-7-807



聖心女子大学グローバル共生研究所
 渋谷区広尾 4-2-24
 聖心女子大学 4 号館/聖心グローバルプラザ



多摩大学教育・研究推進センター
 多摩市聖ヶ丘 4-1-1



晃華学園中学校高等学校
 調布市佐須町 5-28-1



**成蹊学園
 サステナビリティ教育研究センター**
 武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1



一般社団法人 ESD TOKYO
 西東京市



**NPO 法人
 持続可能な社会をつくる元気ネット**
 世田谷区南烏山 6-33-7-506



NPO 法人 渋谷川ルネッサンス
 渋谷区代々木 5-54-1
 石井健蔵気付



公益財団法人 古紙再生促進センター
 中央区入船 3 丁目 10 番 9 号
 新富町ビル 4F



川崎市 ESD 研究会
 世田谷区上馬 1-17-17



NPO 法人さとやま学校・東京
 西多摩郡檜原村藤原 4814



イーエスジーテクノロジーズ株式会社
 中央区日本橋茅場町 1-4-6
 木村実業第二ビル 2 階

■ 神奈川県



NPO 法人 アクト川崎
 川崎市高津区溝口 1-4-1
 ノクティ 2・11 階 高津市民館内



NPO 法人 横浜市民アクト
 横浜市保土ヶ谷区星川 1-2-1
 ほどがや市民活動センター アワーズ内



かわさき環境教育学習プロジェクト
 川崎市中原区井田杉山町 24-8

■ 新潟県



学校法人 日本自然環境専門学校
 新潟市中央区花園 1-3-22



新潟市水族館マリニピア日本海
 新潟市中央区西船見町 5932-445



一般社団法人 新潟市ユネスコ協会
 新潟市江南区沢海 2-15-25
 (一財) 北方文化博物館内



一般社団法人 あがのがわ環境学舎
 阿賀野市保田 3866 番地 1



公益財団法人 鼓童文化財団
 佐渡市小木金田新田 150-3
 佐渡太鼓体験交流館 (たたこう館) 内



フォッサマグナミュージアム
 糸魚川市大字一ノ宮 1313

■ 山梨県



公益財団法人 キープ協会
 北杜市高根町清里 3545



NPO 法人 小さな村総合研究所
 北都留郡丹波山村 966 番地

■ 静岡県



NPO 法人 アースライフネットワーク
 静岡市葵区黒金町 12-5
 丸伸ビル 2F (フロントオフィス)



**一般社団法人 美しい伊豆創造センター
 ジオパーク推進部**
 伊豆市修善寺 838-1



一般社団法人 自然エネルギー推進機構
 伊東市八幡野 1126-16



公益財団法人 ふじのくに未来財団
 静岡市清水区清水町 8-6



VISIONARY INSTITUTE
 伊東市八幡野 1283-12



静岡県三ヶ日青年の家
 浜松市浜名区三ヶ日町都筑 523-1



浜松開誠館中学校・高等学校
 浜松市中央区松城町 207-2



有限会社 SHIPMAN
 浜松市中央区高林 3-7-15 E1



一般社団法人 里の家
 浜松市浜名区都田町 1642

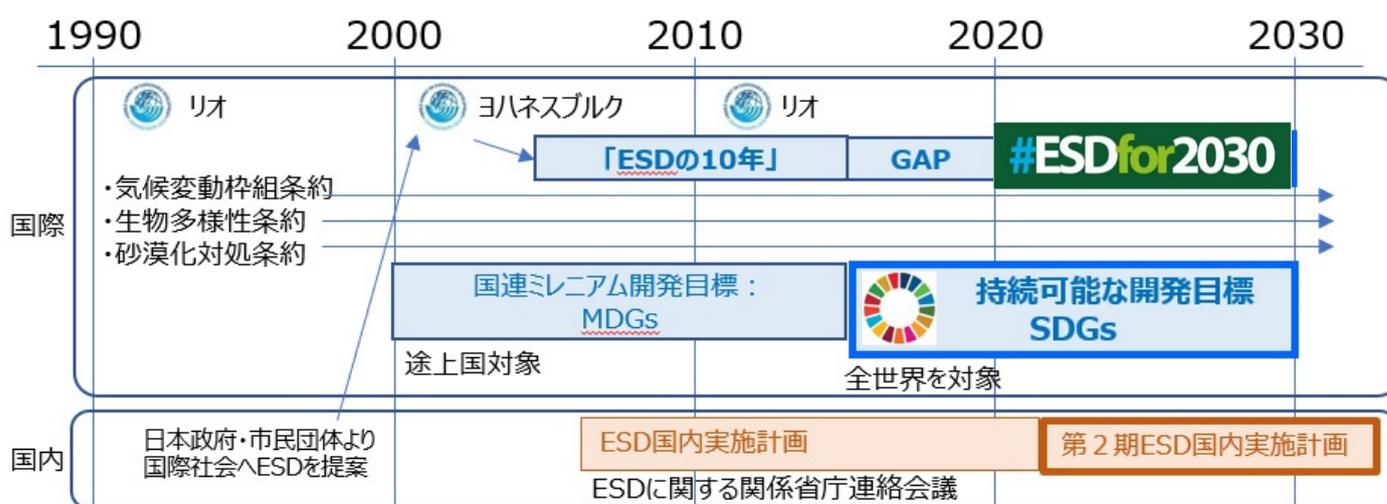
■ ESD とは？

「持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）」とは、人類が将来の世代にわたる恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、問題の根本的な要因等にも目を向け身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のことである。

【第2期 ESD 国内実施計画より】

■ ESD 推進に関わる国際的な動向と日本政府の取組

2002年に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)」の実施計画の議論の中で、我が国は、「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」を提案し、2005年より「ESDの10年」がユネスコを推進機関として世界中で取り組まれてきました。2015年よりSDGsが国連でスタートし、2020年より、「ESD for 2030」として取り組まれています。



#ESDfor2030

「ESD for 2030」は、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の成功への鍵として、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）は不可欠な実施手段であるとして、国連で採択された決議です。国連加盟国政府及び他のステークホルダーが、「ESD for 2030」の実施を通じて、ESDの行動を拡大することが奨励されています。

■ 関東地方 ESD センター4つの機能

1. ESD 活動を支援する情報共有機能

ESDは様々な団体で取り組み、実践活動やセミナーなども多数行われており、これらの情報を収集・発信をしています。

2. 現場のニーズを反映した ESD 活動の支援機能

ESDの実践に役立つ先進事例に関する勉強会など、日々変わるニーズに応じたセミナーの実施、開催支援を行っています。

3. ESD 活動のネットワークの形成機能

地域 ESD 活動推進拠点”に登録された団体や、様々な組織と連携したネットワークで、ESDが推進されることを目指し、様々な取組を行っています。

4. 人材育成機能

ESDを実施するに当たり、ESDやSDGsに関する研修等の実施、人材（リソースパーソン）の紹介、コーディネートなど、各地域のニーズに応じて、人材育成に関わるサポートを行っています。

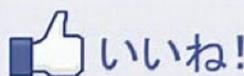
1.ESD 活動を支援する情報共有機能

ホームページによる情報発信

<http://kanto.esdcenter.jp/>



Facebookでの活動紹介例



当センターFacebook ページで、日々の活動や最新情報などを掲載しています。いいね！を宜しくお願いします。



毎月第1木曜日発行。関東地方のESDやSDGsに関するイベントや、コンテスト等募集、ニュースなどの情報を集めてお送りしています。

メールマガジン登録



首都圏を中心に、関東エリアでは様々な団体が ESD/SDGs に関連したイベント、セミナー、コンテスト等を実施しています。そうした情報を収集し、発信しています。

当センターが実施したアンケートで、「ESD の具体的な取組状況が分からない」というご意見が多数あり、各地で開催される行事に参加し、記事を掲載しています。

この他に当センター行事の報告や、ESD に関する教材の情報源など、様々な情報提供を行なっています。



TEL : 03-3406-5180

URL : http://www.geoc.jp/kanto_epo

E-mail: kanto-epo@geoc.jp

環境パートナーシップオフィス (EPO) は環境省が全国 8 か所に設置している拠点です。関東 EPO では地域の特徴を活かした、環境活動の活性化・パートナーシップによる地域づくり推進のため、時代や地域のニーズに合わせた様々な支援事業を共に行っています。

2.現場のニーズを反映した ESD 活動の支援機能

ESD の実践に役立つ、先進事例に関する勉強会など、日々変わるニーズに応じたセミナーの実施、開催支援を行っています。昨年度に引き続き、ユース応援企画として、「SDGs 文化祭」の開催協力を行いました。

SDGs 文化祭



2030年の未来は、
大人には任せておけない！

中・高生なら誰でも参加できる

SDGs文化祭

日時：令和6年10月30日
令和6年11月10日
場所：対面、ハイブリッド、オンライン
主催：SDGs文化祭実行委員会
共催：(一社)ESD TOKYO
協力：グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン
参加：36名

What 今回で6回目となるこの企画は、SDGsに興味ある中高生の皆さんが、普段通う学校を飛び出して、企業でSDGsを担当する方や様々な世代の方との交流・発表をする場です。既にSDGsに関したリサーチや実践を行っている中高生の6チームが参加し、企業の方との交流からヒントを得て、活動を発展させていきます。「学校でSDGsについて学ぶ機会が少ない」、「社会で活躍する大人とSDGsについて話してみたい」、「自分が考えるSDGsアクションに対し、率直な意見をもらいたい」などと思う生徒の皆さんに、積極的にSDGsに関わる場所を提供しました。



■ プログラム実施内容

■ 企業のSDGs担当者との交流（令和6年10月30日）

このセッションでは、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）の社内浸透研究分科会・SDGs分科会にご協力を得て、企業のSDGs担当者と交流しました。SDGs文化祭に参加する中高生の発表を聞き、コメントや専門的なアドバイスをいただきました。

● 今年度の発表内容

SDGs ポップアップストア	ペットボトルキャップチャーム
バナナペーパー折り紙	児童労働のネイルチップ
野菜蜜蝋クレヨン	点字古紙加工



■ 子供向けワークショップの開催（令和6年11月10日）

SDGs文化祭に参加した晃華学園（東京都調布市・地域ESD活動推進拠点）の生徒が、TBSテレビが主催する、家族で楽しめる体験型SDGsイベント「地球を笑顔にする広場」に出展しました。自分たちが取り組むプロジェクトを、ワークショップ形式で来場した子供たちに伝えました。

はじめは慣れない子供たちを相手に苦戦していましたが、のべ850人の子供たちにプログラムを実施しました。



3.ESD 活動のネットワークの形成機能

“地域 ESD 活動推進拠点”に登録された団体や、様々な組織と連携したネットワークで、ESD の取組が推進されることを目指し、様々な取組を行っています。



関東 ESD 推進ネットワーク 第 8 回 地域フォーラム 気候変動じぶんごと化プロジェクト 気候変動×地形×防災アプローチの成果と展望

日付：令和 7 年 1 月 25 日（土）14:00～17:30

場所：東京ウイメンズプラザ・ホール+オンライン

主催：関東地方 ESD 活動支援センター

環境省関東地方環境事務所

参加：会場 28 名、オンライン 30 名

What 関東地域の多様なステークホルダーが一堂に会し、地域ネットワークの形成を構築する機会として、毎年 ESD 推進ネットワーク地域フォーラムを開催しています。地域 ESD 活動推進拠点の事例などを題材に、多くの方に ESD の考えを広めて行く場です。

■「気候変動じぶんごと化プロジェクト」実践報告

- ・気候変動×避難所×ジェンダー（千葉県流山市立東部中学校）流山防災まちづくりプロジェクト（NBMP）代表 矢口 輝美氏
主にジェンダーの視点から、各地で避難所開設訓練を実施。気候変動による水害増加のメカニズム、減災のために地域の地理の成り立ちを理解するプログラムについて解説いただきました。
- ・気候変動×再エネ×福祉（千葉県柏市ザザビードウ[福祉施設]）（一社）銀座環境会議 代表理事 平野 将人氏
災害時には、障害者や高齢者などの社会的弱者の方は、広域避難所への避難が難しいことから、福祉施設を対象に太陽光発電設備の設置などを支援。福祉施設関係者を対象に実施した防災と再生可能エネルギーに関するセミナーについて、報告いただきました。

■【基調講演】気候変動の『じぶんごと化』とはなにか - シティズンシップ教育の視点から -

立教大学 環境学部設置準備室 大学院社会デザイン研究科 教授 二ノ宮リム さち氏

気候変動に関する意識調査の国際比較データを用いて、日本の関心が低いことについて言及。気候変動についての教育、気候アクションを通じた教育、気候正義のための教育、そして気候正義としての教育という 4 つのアプローチが提案されました。

アクティブ・シティズンシップの概念を用いて、個人の変容と社会の変革を連動させ、気候アクションを通じてこの力を育成することが今後重要になると示されました。最後に、気候変動教育の重要なポイントとして、生活からの問題意識、社会変革と学びの往復、気候正義の追求、対等な人間関係の構築、そして学び合いや対話の場づくりが挙げられました。

■【パネルディスカッション】

静岡県地球温暖化防止活動推進センター次長の服部 乃利子氏のモデレートにより、気候変動問題をじぶんごと化することの難しさや重要性について議論されました。じぶんごと化のきっかけは人それぞれ異なり、学校教育だけでなく、地域社会全体で継続的に取り組むことが重要です。じぶんごと化をうながすには、集う機会を設ける、アクションにつなげるスキルを身につける、他者と対話する力を育むことが大切です。気候変動に限らず、様々な社会課題に関心を持ち、アクションを起こす経験を積み重ねていくことが求められています。教育現場では、子供たちの主体的な行動を支援し、地域社会とつながる機会を提供することが重要です。これらの点を踏まえ、気候変動問題への取組を広げ、持続可能な社会の実現に向けた活動を継続していく必要性が確認されました。

■【ぺちゃくちゃタイム】

本日の講演や発表内容について、より理解を深めるために、一般の参加者、パネリストの方などが自由に意見交換をしていただく「ぺちゃくちゃタイム」を実施しました。

ご参加者アンケートより

- ・ 短時間に盛りだくさんのプログラムで良かった
- ・ 会場がホールだったが、気軽に話せる規模が良かった
- ・ 「じぶんごと化」は、無理に気候変動に絡めず、まずは自分の関心領域に携わって、人生を通じていろいろなレベルと規模でアクションを起こしていくという二ノ宮先生のお話が印象的だった

地域 ESD 活動推進拠点研修会

What 関東エリアの地域 ESD 活動推進拠点を対象に、現場における拠点の活動の理解、企業の取組の視察、ESD 拠点同士の連携促進を目的に、研修会を実施しました。例年、東京都内の会場で実施していましたが、今年度は ESD 実践の現場で行いました。日頃、直接顔を合わせる機会が少ない皆さんですが、地域 ESD 拠点の仲間どうし、熱のこもった議論がされました。

日時	令和 6 年 11 月 1 日 (金) 12:00~16:00
会場	キヤノン エコテクノパーク (茨城県坂東市)
対象	関東地方の ESD 活動推進拠点
協力	キヤノン エコテクノパーク
参加	26 名

■プログラム実施内容

■ キヤノン エコテクノパーク 見学・プログラム体験

通常は小学生向けに実施している「キヤノン環境出前授業 ものの「とくちょう」を利用してリサイクル」と題した体験プログラムを受講しました。これは本施設がプリンターの使用済みカートリッジのリサイクルを実施していることから、様々な素材が混在しているものを、水に浮くか浮かないか、磁性があるかないか、重量の違いなどを利用して、分別していく内容。参加者は仮説を立て、その上で実際に作業して分別できるかを検証します。この体験を行った上で、リサイクル工場を見学しました。



■ 地域 ESD 活動推進拠点の取組紹介

茨城県内の地域 ESD 活動推進拠点、関連団体の方より、ESD に関連した活動について発表していただき、ESD の取組に関する情報共有を行いました。

- ・茨城 NPO センター・コムズ (地域 ESD 拠点)
- ・BEK Lab (べくらぼ) (地域 ESD 拠点)
- ・茨城県地球温暖化防止活動推進センター



■ グループワーク：ESD プログラムのアイデア検討

発表をいただいた 4 団体を軸に、各拠点同士でテーマを定め、ESD プログラムのアイデアを検討しました。

企業との連携：キヤノン	まちづくり等：茨城 NPO センター・コムズ
教育コンテンツ：BEK Lab (べくらぼ)	地球温暖化防止：茨城県地球温暖化防止活動推進センター

「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2024」への出展

ESD 推進ネットワーク全国フォーラムは、ESD 推進ネットワークのステークホルダーが一堂に集い、ESD に関する最新の国際・国内動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、全国各地の実践事例を学ぶ機会です。

当センターでは、令和 4 年度から取り組んだ、ESD for 2030 学びあいプロジェクトに関するポスターセッションを行い、来場者の方に向けて活動を PR しました。スタッフだけでなく、ESD 実践者として流山防災まちづくりプロジェクトの矢口輝美氏にもご参加いただき、今年度の活動の意義などを発表しました。

日 時：令和 6 年 12 月 1 日 (日) 10:00~16:00

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)



外部主催のイベント等への協力・出展など

当センターでは、外部主催行事への講演、レクチャー等にも協力し、ネットワークの環を広げています。

○立教大学 SDGs 実践発表会

気候変動教育をテーマとした ESD for 2030 学びあいプロジェクトの事例を報告するとともに、セミナーへの参加を呼びかけました。

日時：令和 7 年 1 月 13 日 (月・祝) 10:00~17:45

会場：立教大学 (東京都豊島区)

ESD for 2030 学び合いプロジェクト 気候変動による影響と対策に関する、学びと実践

ESD を実施するにあたり、「体験」は学習者にインパクトのある学びの機会であり、そこに「驚き」、「発見」、「感動」などが加わることで、学習した内容がより定着します。令和 6 年度の ESD for 2030 学び合いプロジェクト（関東）は、2 つのモデル地域がそれぞれの特徴を活かしてプログラムを実施し、相互参照しながら「学び合い」を行いました。

実施に当たっては、「アドバイザーグループ」の方にも加わっていただき、内容を検討するとともに、成果を共有するために関東 ESD 推進ネットワーク地域フォーラムでも共有しました。



令和 6 年度のプログラム概要

6/24 第 1 回 プログラム検討会 (オンライン)
プロジェクトメンバーが、それぞれのプログラム案を紹介し、アドバイザー・グループからの意見を基に、プログラム案のブラッシュアップを行う



12/4 第 2 回 プログラム検討会 (オンライン)
プロジェクトメンバーが参加し、実施内容の振り返り、今後の展開について考える

1/25 関東ESDフォーラム 3年間の成果を発表

モデル地域の取組

神奈川県山北町

日時：令和 6 年 7 月 10 日 (木)
対象：神奈川県立山北高校 2 学年
講師：気候変動教育：神奈川県気候変動適応センター
地理教育：神奈川県立生命の星・地球博物館
防災教育：山北町役場地域防災課
エネルギー教育：(一社) 自然エネルギー推進機構

※探究のテーマとして「環境」を選択している生徒は、別途小水力発電の見学を行った。



千葉県柏市

日時：令和 6 年 10 月 27 日 (土)
対象：地球温暖化の影響や対策、地域の防災に関心のある福祉施設の方
社会福祉施設に関わる行政や事業者の方
講師：防災とハザードマップ：柏市危機管理部防災安全課
気候変動と水害リスク：銚子地方気象台
再生可能エネルギーの活用、設置のための資金調達：(一社) 銀座環境会議



4. 人材育成機能（研修の実施、支援など）

ESD を推進するには、ノウハウを持った指導者の存在が欠かせません。また都市部と農村部では、地域毎で ESD に対するニーズが大きく異なるため、地域の実情に応じたプログラムを開発する必要があります。当センターでは、地域で ESD 事業に関わる方に対し、講師紹介、コーディネート、企画相談などを行い、指導者研修や取組の支援を通じて、地域の ESD 人材育成を行っています。

■当センタースタッフによる講演、ワークショップ・ファシリテーション

実施事例：研修の運営

日時：令和 6 年 7 月 17 日（水）13:00～16:30

対象：小・中・特別支援学校の教職員

講師：静岡県伊豆市立天城中学校 元校長 大塚 明 氏

（第 1 回 ESD 大賞 中学校賞を受賞）

千葉市教育センターからの依頼により、「持続可能な社会の創り手を育てるための ESD 研修-子供たちと一緒に考える、未来の地球のための授業づくり」と題した研修のコーディネートを行いました。研修内容の企画、講師紹介を行い、当センターのスタッフが当日の運営及びグループワークのファシリテーターを務めました。



研修ご担当者：千葉市教育センター教育研究・総務班 指導主事 若松 諭様

現行の学習指導要領の前文には『持続可能な社会の創り手を育てる』と明記され、これからの予測困難な時代を生き抜くために求められる資質・能力の育成に ESD は不可欠な教育です。当日は ESD の理念を深く学び、それを踏まえて学区の現状を見つめ直しました。そして、子供の学びに火をつける探究学習をグループごとに創造的にデザインするなど、充実した研修となりました。

■令和 6 年度のその他の支援等の主な実績

・BEK Lab（地域 ESD 拠点）ラチオつくば「みんなのま・な・び」インタビューイー・コーディネート

令和 6 年 4 月～

・書籍：ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり 第 9 章 ワークショップから見てきた、ジオパーク活動の未来像

監修：（一社）美しい伊豆創造センター 発行日：令和 6 年 8 月

・桐蔭横浜大学「大学共通科目 サステナブル社会学」講義：関東 ESD センターの取組紹介

令和 6 年 10 月 21 日（月）@桐蔭横浜大学（神奈川県横浜市）

・（一社）きりゅう市民活動推進ネットワーク SDGs 講演会～SDGs の現状と未来～ 講演

令和 6 年 11 月 8 日（金）@美喜仁桐生文化会館スカイホール（群馬県桐生市）

・認定 NPO 法人自然環境復元協会「環境再生医」受講者向け研修動画：講演

令和 6 年 11 月～12 月 オンライン配信

・日本ジオパークネットワーク全国研修会 ファシリテーション

令和 6 年 12 月 9 日（月）@プラサヴェルデ（静岡県沼津市）

・（一社）美しい伊豆創造センター ジオパーク推進部 教育ワーキンググループ委員

令和 6 年 2 月～

・「むさしの Youth エコプランナー」発表会 コメンテーター

令和 6 年 3 月 8 日（土）@むさしのエコ re ゾート（東京都武蔵野市）

主催：東京都武蔵野市

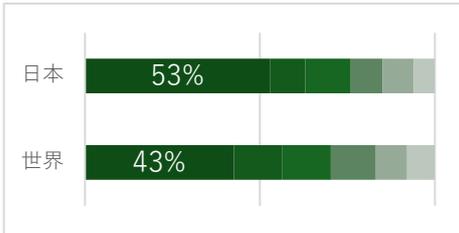
当センターでは、学校、行政、企業、民間団体を問わず、ESD/SDGs の推進に関する人材育成のサポートを行っています。実施される団体のニーズに応じて、当センタースタッフ、地域 ESD 活動推進拠点等と連携し、対面・オンラインでの講師の派遣、研修等の企画の相談・コーディネートを実施しています。

初歩的なご質問から企画の設計に至るまで、トータルでサポートが可能ですので、まずはお気軽にご相談ください。

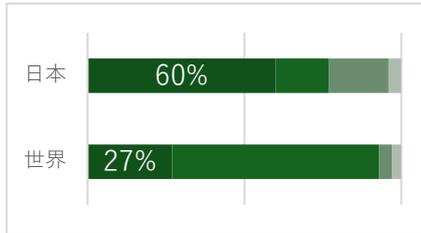
■プロジェクトの背景

気候変動に関する意識調査によると、毎年記録が更新される暑い夏や水害の多発等、気象の変化を実感することも多いため、「気候変動が地域社会や私たちの暮らしにすでに影響を及ぼしている」という危機感は認識されていることが分かります。一方、その対策のための行動は、節電や節水などガマンや負担を強いられるイメージが強いせいか、「生活の質を脅かすものだ」と考える割合が世界に比較して高くなっています。その結果、「今のライフスタイルは変えたくない」と思っている日本国民の特徴が分かります。

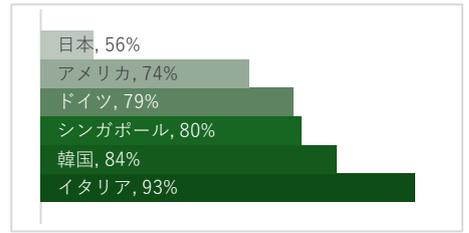
気候変動がすでに地域社会に影響を及ぼしていると思う割合



気候変動対策は生活の質を脅かすものだと考える割合



気候変動の対策のために自分のライフスタイルを変えてもよいと考える割合



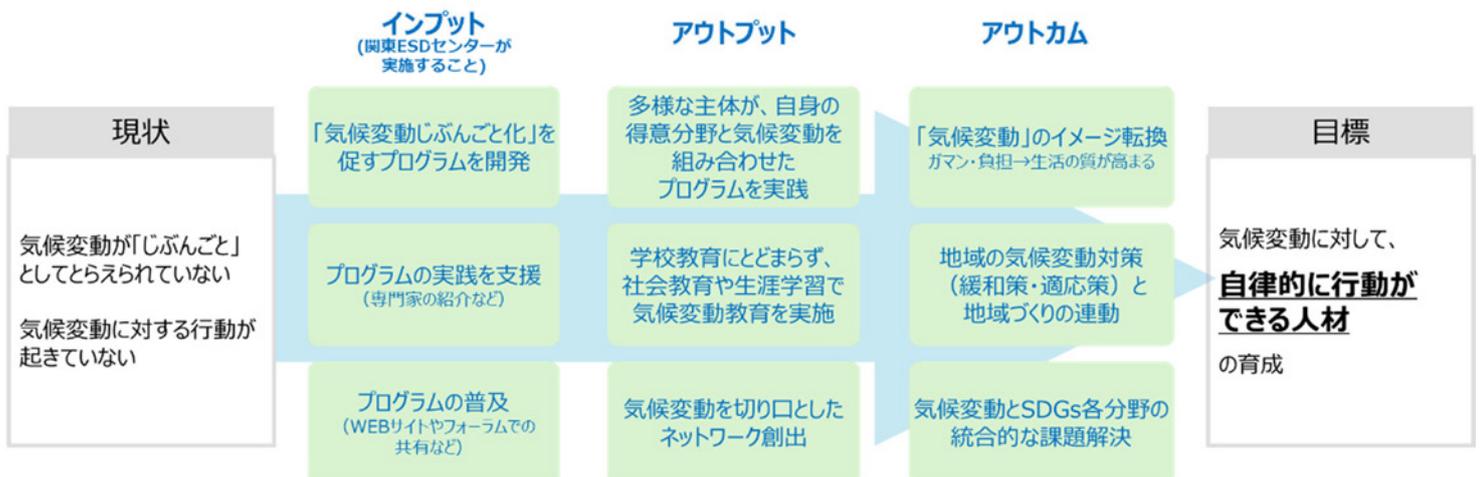
このような意識が醸成される背景には、気候変動問題とその対策は、身近に感じづらいという特徴があると考えられます。

■気候変動問題の特徴■

- 空気の問題で目に見えない
- 目標年の2050年に実感が持てない
- 排出したCO₂の影響はすぐに現れない
- 正しい解決策が分からない
- 自分一人が対策しても変わらない
- 技術革新が解決してくれる

「気候変動じぶんごと化プロジェクト」で目指す姿

「気候変動がじぶんごとになっていない」「気候変動に対する行動が起きていない」という現状に対して、自ら行動出来る人材を育成するには、どのようなプロセスがあり得るのかを考えました。多様な分野の組み合わせや、学校教育だけでなく社会教育への広がり、気候変動教育の枠にとどまらないネットワークが形成されることで、気候変動に対するガマン・負担というイメージから、生活の質が高まるというイメージへの転換や、気候変動対策と地域の施策との連動、SDGsの統合的解決が、長期的なアウトカムとして生み出せるのではないかと仮説を持ちました。そこで、まずは「気候変動を身近に感じる」ことをうながすために、地域の課題、身近な題材と気候変動を組み合わせたプログラムを開発し、実践することにしました。



■3年間で得られた成果■

プロジェクトを開始して3年が経過した現時点で、上記のプロセスとアウトカムがすべて実現しているわけではありません。しかし、3年間で得られた成果として、右の3点が挙げられると考えています。

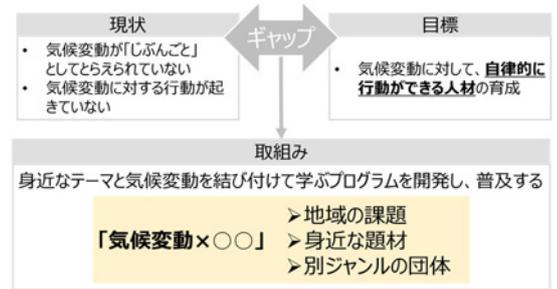
3年間の成果

- ① 他地域への水平展開
- ② 多様な主体の参画、間口拡大
- ③ 気候変動のイメージの転換

■プログラムの開発

身近なテーマとして私たちが取り上げたのは、「地形」と「防災」です。

日本人の多くはすでに「気候変動が地域社会や私たちの暮らしにすでに影響を及ぼしている」という危機感を持っていることは分かっています。そこで、気候変動がもたらす影響の1つに大雨の増加とそれによる洪水や高潮・高波、土砂災害などの発生があること、自分が住む地域の地形の成り立ちとハザードマップの危険個所との関係を知ることで、その漠然とした危機感が自分の暮らしと関係がある、すなわち「じぶんごと化」につながるのではないかと考えました。千葉県流山市立東部中学校 1年生を対象に、気候変動、地形、防災に関する地域の専門家による講義と、防災の具体的なアクションとして、実際に避難所となる学校の体育館を舞台とした避難所開設訓練を取り入れたプログラムを開発しました。



気候変動じぶんごと化プロジェクト

気候変動×地形×防災アプローチ



プログラム開発には、地域でまちづくりに取り組む市民団体や、行政、学校、専門家の方に参画いただきました。多様な視点の意見を取り入れることで、複数のテーマをどうつないだら「じぶんごと」が進むかの議論や、地域住民の参加をうながすにはどのようにしたら良いかなどについて、活発な意見が交わされ実践に活かされました。

行政	流山市教育委員会 学校教育部 指導課：指導主事 割貝誠一氏 流山市役所 市民生活部 防災危機管理課：係長 高橋正臣氏、主事 伊波美の里氏
学校	流山市立東部中学校：教務主任 石井勝巳氏
地域	流山防災まちづくりプロジェクト：代表 矢口輝美氏 流山市東部公民館：館長 若松文氏
専門家(気候)	国立環境研究所 気候変動適応センター(CCCA)：副センター長 吉川圭子氏
専門家 (ESD)	都留文科大学 社会学部 特任教授、関東 ESDC 企画運営委員長：高田研氏 東海大学 スチューデントアチーブメントセンター：准教授 二ノ宮リムさち氏

※肩書は令和4年当時のもの

■プログラムの実践

2年目となる令和5年以降は、学校の授業や一般公開のイベントで実践を重ねました。

■学校の授業での実施

	専門家の講義			体験・見学
	気候変動	地形	防災	
川崎市立平間小学校 4年生	川崎市地球温暖化防止活動推進センター (KWCCCA)	—	KWCCCA スタッフ (防災士)	グループワーク
佐倉市立根郷小学校 6年生	銚子地方気象台	佐倉市教育委員会 教育部文化課	佐倉市 危機管理部危機管理課	流山防災まちづくりプロジェクト：避難所開設訓練
流山市立東部中学校 1年生	国立環境研究所 気候変動適応センター	流山市立博物館	流山市市民生活部 防災危機管理課	流山防災まちづくりプロジェクト：避難所開設訓練
土浦日本大学 中等教育学校 1年生	国立環境研究所 気候変動適応センター	茨城県 霞ヶ浦環境科学センター	土浦市防災危機管理課 防災危機管理係	流山防災まちづくりプロジェクト：避難所設備の見学
神奈川県立山北高校 2年生	神奈川県 気候変動適応センター	神奈川県立 生命の星・地球博物館	山北町役場地域防災課	自然エネルギー推進機構：小水力発電、防災備品の見学

■ 一般公開イベントでの実施 ■

	主な対象	専門家の講義			体験・見学
		気候変動	地形	防災	
千葉県流山市	地域の方々、 ガールスカウト指導者	千葉県 気候変動適応センター	関東地方ESD 活動支援センター※	流山市市民生活部 防災危機管理課	流山防災まちづくりプロジェクト： 避難所開設訓練
社会福祉法人彩会 ザザビー・ドゥ	社会福祉施設、 近隣住民	銚子地方気象台	関東地方ESD 活動支援センター※	柏市危機管理部 防災安全課	銀座環境会議： 再生可能エネルギー設備の見学 (雨天のため中止)
伊豆半島ジオパーク	地域の小学 4～6年生	静岡県 地球温暖化防止 活動推進センター	ジオガイド、 伊豆半島 ジオパーク研究員	長泉町 地域防災課	ジオガイド： 「まちあるき」と危険個所の解説

※構成上、専門家による講義ではなくESD活動支援センターで実施

■ 実践事例 ■

流山市立東部中学校
1年生

- 3回の授業で時間をかけて実施
- 実際に避難所に指定されている学校で避難所開設訓練を実施し、地域の皆さんも参加
- 壁新聞で学びをアウトプット
- 授業を受けた1年生が3年生になった時に、防災に関する授業を再度実施



神奈川県立山北高校
2年生

- 高校の探求学習が始まるタイミングで実施
- 地域の地形を活用した小水力発電を題材に、再生可能エネルギーについて講義
- 小水力発電設備と、発災時に活用できる蓄電池や、防災備品を見学



社会福祉法人彩会
ザザビー・ドゥ

- 市民発電所として太陽光発電を設置している福祉施設で実施
- 福祉施設はBCP（事業継続計画）の策定が義務化
- 主な対象者は、近隣の福祉施設の管理者、担当者
- 「地域に開かれた施設」として、近隣住民も参加
- 太陽光発電設備の設置に役立つ資金調達等の情報提供



実践者の声



各テーマでの専門性のある方によるお話は、生徒たちにとって驚きと刺激になった。また、複数の教科を横断した内容は、各教科の授業を受け持つ教員にとっても学びである。さらに、講師の方や自治体の担当者、視察に訪れた企業など、多くの方と新たなコネクションを作ることが出来た。
(土浦日本大学中等教育学校 根本太一郎教諭)



実施後、「実際に太陽光発電を設置するには」という相談が福祉施設の方から複数寄せられ、その1つでは施設の図面を見て検討するなど、具体的な行動につながった。
(銀座環境会議 平野将人氏
[柏市福祉施設で実践])

異なる分野の活動をしている様々な団体との連携が進んだ。最終的なゴールが同じであることが共有出来ると、各団体の目的、役割の違いを超えて協働が実現出来る。
(流山防災まちづくりプロジェクト 矢口輝美氏
[流山市立東部中学校でプログラム開発から参画])



ハザードマップがあっても読めなくては意味ないので読めるように頑張りたい。
(神奈川県立山北高校2年生)

実際の避難所の様子がイメージ出来た。ルール作りなど、今のうちに出来ることもある。
(流山市参加者)

気候変動はただの天気だと思っていたが、地球温暖化を防止するために努力しようというイメージが変わった。
(神奈川県立山北高校2年生)



避難所は自分自身で開設しないといけないと知った。
(流山市立東部中学校3年生)



参加者の声

太陽光発電の設置について、ネットで調べたことはあるが、実際に設置をされている方のお話を直接聞いて良かった。
(社会福祉法人彩会 ザザビー・ドゥ参加者)



気候変動じぶんごと化プロジェクト 実践に向けたヒント

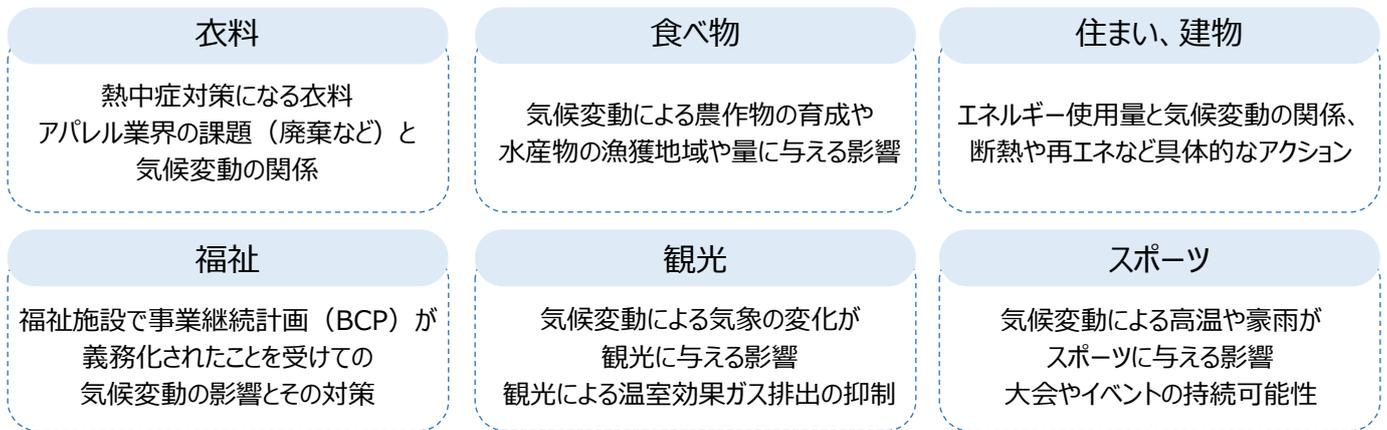
ここからは、自身が活動する分野に「気候変動×地形×防災」を取り入れる場合の「実践に向けたヒント」をお伝えします。

「気候変動」が、数多くある環境/社会課題の中でも重要なテーマであることは間違いありません。そのような課題とあなた自身の活動を結び付けることで、コミュニケーションや伝え方のバリエーションが広がるのではないのでしょうか？



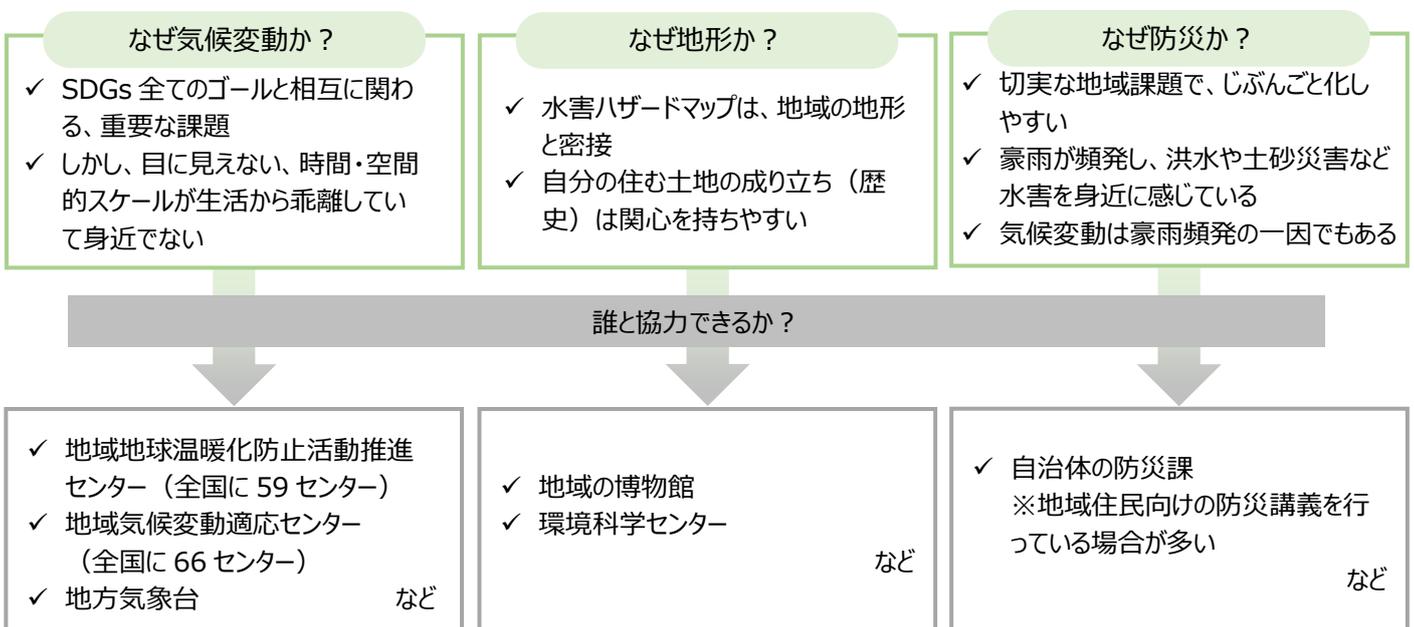
これまでの私たちの実践から、あらゆる活動が気候変動と組み合わせられると考えています。「気候変動と無関係のテーマはない」くらいの考えで、発想を広げてみてください。

■活動分野の広がり■



■なぜ、「気候変動」「地形」「防災」か？ 誰と協力できるか？

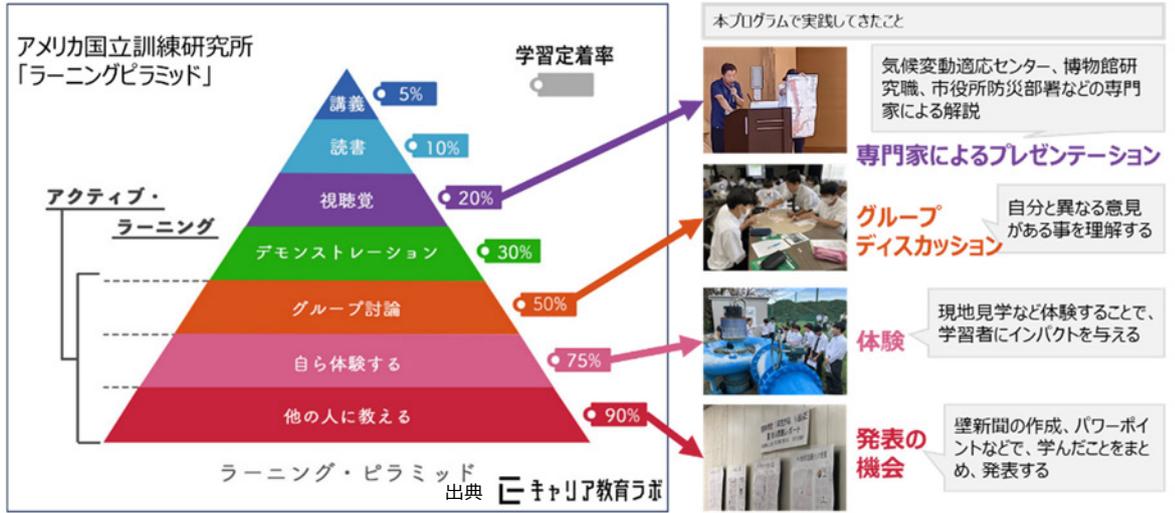
気候変動に対する漠然とした危機感を身近な課題ととらえるために、地域の課題、身近な題材として「地形」「防災」を結び付けたということはすでに述べたとおりですが、なぜこの3つなのかをもう少し掘り下げてみます。また、これらのテーマと組み合わせるには、それぞれの分野で協力出来る人が必要です。以下を参考に地域の中の協力者を探してみてください。



■「じぶんごと化」をうながす Tips アクティブラーニングを意識する

本プログラムでは、気候変動や地形、防災の専門家による講義を行っています。これは、日常の授業や学びとは異なり、参加者の興味関心を引くことに有効です。さらに私たちは、学びの主体者が能動的にそのプロセスに参加する「アクティブラーニング」を出来るだけ取り入れてきました。

グループディスカッションは必ず実施し、また可能な限り、体験を組み入れています。発表の機会を作ることは時間的制約等により難しい場合が多いかもしれませんが、「アクティブラーニング」を意識した実践を心がけています。

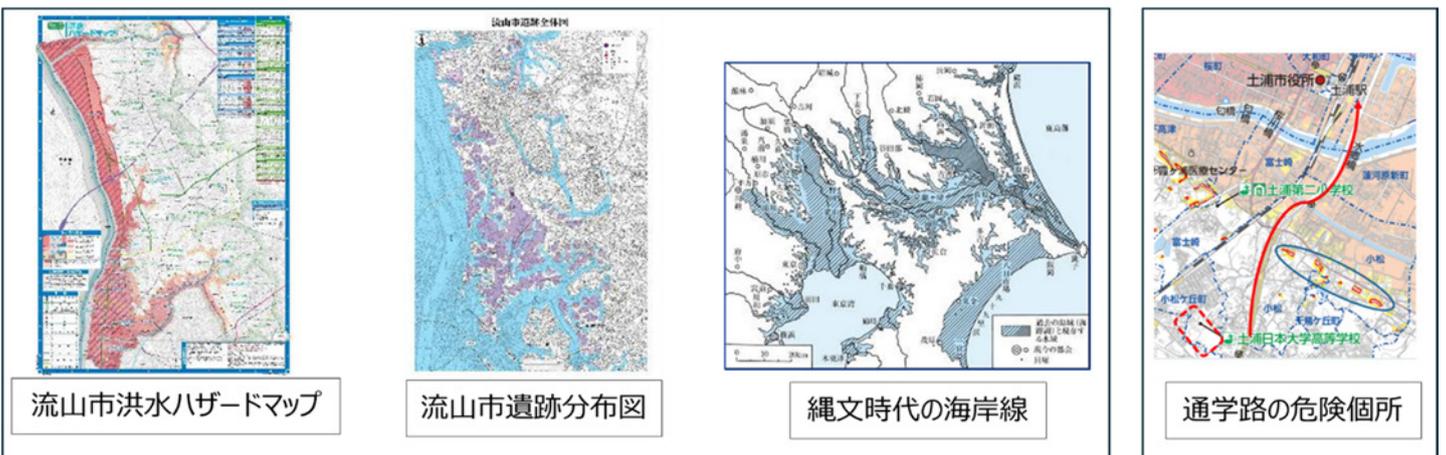


■「じぶんごと化」をうながす Tips 住んでいる地域の地形とハザードマップを学ぶ

「地形」と「防災」は、『自分が住んでいる地域の話』とすることが「じぶんごと化」をうながす大切なポイントです。一般的な話とせず、自分の地域の土地の成り立ちの歴史を知り、ハザードマップを見るという行動で参加者の興味が高まります。実際、私たちの実践においては、ハザードマップを見た小学生は「自分の家はどこ？」と探しますし、中学校でも「駅から学校までの土地の高さの変化」を伝えました。



- ✓ 自分の住んでいる土地の成り立ちへの興味
- ✓ 気温が現在より1-2℃高く、海面が2-4m高かった縄文時代の海岸線が、現在のハザードマップとほぼ一致するという驚き
- ✓ 毎日通っている通学路など近くにも危険箇所があるという実感



■バリエーションの選択 対象者の検討

この「実践に向けたヒント」は、固定化されたプログラムをお伝えするものではありません。自身の活動分野や目的に沿って、気候変動を伝えるレベル感は自由に検討してください。また、「だれに向けて実践するのか」も事前に決めておくべき重要なポイントです。

気候変動の伝え方

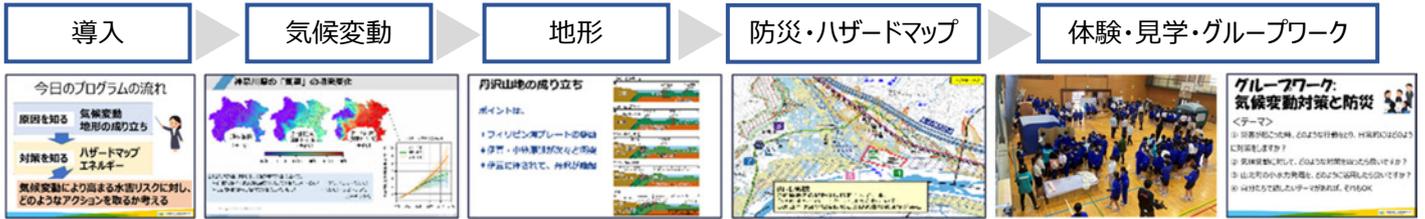
- ガッツリ学ぶ
→気候変動を中心に据える
- ライトに伝える
→他の分野を中心に据える

誰に向けて？

- 学校（小、中、高）
- 大学生
- 企業
- 市民（どういふ人たちが）

■プログラムの組み立て

プログラムの組み立ては、対象者や時間、協力者の状況などによって異なりますが、代表的な組み立てを紹介します。



- ✓ **【導入】**プログラムの目的、本日の流れを説明。導入として、実践者や地域の方の事例を共有しても良い。
 <事例> 福祉施設で行った際は、施設の屋上に太陽光発電設備を設置した実践例を本人から報告いただいた。
- ✓ **【気候変動】**地球規模の課題である気候変動について、気候変動が起こる仕組みや、その影響について講義。地域にある地球温暖化防止活動推進センターや気候変動適応センター、地方気象台の協力を得て、地域固有の気象データ（温度変化、大雨の回数など）を取り入れると良い。
- ✓ **【地形】**地域の地形の成り立ちや特徴について講義。地域にある博物館や環境科学センターの協力を得て、地域固有のデータ（縄文海進の海岸線や、火山など）を取り入れると良い。
- ✓ **【防災・ハザードマップ】**防災について、地域のハザードマップを実際に見て、その見方や危険個所について講義。この際、地形の講義とつながりを意識し、流れが途切れないようにする。
- ✓ **【体験・見学・グループワーク】**避難所訓練等、災害に備える対応策や発災時の行動を学ぶ。可能であれば体験を取り入れる。適宜、グループワークを実施し、学びの定着を図る。
 <事例> 実際に避難所に指定されている学校の体育館で、地域の方にも参加いただき、避難所開設訓練を実施した。

■必要な役割

「やりたい」という気持ちは大切ですが、それだけでは実現出来ません。企画を具現化するために必要な役割をまとめました。

必要な役割

実践者	「やりたい」と思う人
講師	専門家、コンテンツ提供者
コーディネーター	プログラム構成の検討、協力者の選定や依頼
スポンサー	広報、場所、謝礼等の経費の提供

☀️ コーディネーター

プログラム全体に目配せし、関係者との協力など実践に向けた調整役を担います。経験を積んだ実践者が受け持っても良いですし、学校の先生や自治体職員などがその役割を果たす事例もあります。

☀️ スポンサー

無料または安価の公共施設の利用や、日ごろから講師対応を行っている公的機関と協力するなどの工夫も必要ですが、実践にあたっては、場所代や講師への謝礼、広報活動などに経費が必要な場合があります。これまでの事例では、学校のPTA 予算や自治体の補助で実施したこともあります。

東京都渋谷区神宮前 5-53-67
 コスモス青山 B1F
 TEL : 03-6427-7975
 URL : <http://kanto.esdcenter.jp>
 E-mail : kanto@kanto-esdcenter.jp
 時間 : 10:00~18:00
 休館日 : 土曜、日曜、祝日、年末年始



- ・表参道駅（東京メトロ：銀座線・千代田線・半蔵門線）（B 2 出口より徒歩約 5 分）
- ・渋谷駅（JR・東急・京王井の頭線・東京メトロ）（ヒカリエより徒歩約 10 分）